

茨木高校野球部

OB会報

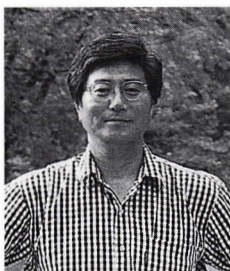
発行

大阪府立茨木高校

野球部OB会

茨高野球部の

後輩たちへ

岩本 芳美
(高22回)

十六〜十八歳といえば、さらさら輝いている、まさに新緑の季節のような時代です。

中学生からちよつと大人になった気分、わくわくしながら、茨高の門を潜つたことを記憶しています。中年になって振り返ると、高校生時代の怖いもの知らずの自由な雰囲気は、甘酸っぱいものですが、何ものにもかえがたい宝もののような気がします。

人生には、その時その時に為すべきことがあります。子供のときは思いっきり遊ぶ。高校は知識を身につけて体力を養う。大学は自己

管理を学ぶ。社会人となれば、社会のルールを学びながら新しい現実を創り出していく。これが人間の成長曲線であろうと思うのです。こうした意味からも、高校時代にクラブ活動をしていて本当によかつたと思つています。クラブ活動は、ルールを学び、体力をつくる上で最適なものといえます。公平に楽しくゲームをするためにルールがあること、先輩後輩の礼儀、チームワーク等々、社会生活に必要なことばかりです。体力や精神力に至っては、仕事をこなして行く上で、最も大事なものです。最後は知力よりも体力であることは、経験的な事実です(社会人になっておられる先輩後輩の諸氏の賛同を頂けるものと思います)。茨高野球部の中で、体力を鍛え「一投一打の大切さ」を学んだからこそ、いまの私があると思うのです。

切な仲間、友だちです。苦しかったこと、楽しかったこと、悩んだこと、青春を共有しているから話が弾むのです。われわれのチームは強くはなかったが、練習も試合も精一杯やつたとの思いがあり、自分の中で、輝いた日々を反芻できるのです。また、茨高の私設応援団は、私の誇りです。誰からいわれた訳でもないのに、プラスバンド部をはじめ有志の学生諸君が、夏の暑さの中で、最後まで熱い声援を送ってくれたことは、今でも鮮に脳裏に残っています。われわれ選手は、茨高の代表としてプレーしているという自覚はもつていたが、この私設応援団は、私に「茨高の」野球部ということを実感させてくれました。

反面、もう一つの衝撃的な思い出それは、一年後輩の木村君の急死です。真面目な心優しい青年だった。次のチームのキャプテンとして期待されていたが、春先の寒い日に心臓発作で苦しみながら、グラウンドで急死したのです。今でも、十六七の木村君のおさない顔が浮かんできます。(彼の人生はそこで、ストップしたままなのだから)

茨高野球部は、私の人格の核に近いところを造つてくれました。硬式ボールの芯を包む糸の部分と、いったらいいでしょうか。ボールの芯の部分は私がもつて生まれた性格であり、革の部分は社会人になつてからの性格です。何重にも巻いた糸の部分のほとんどは、茨高野球部で形成されたものでしょう。私は社会人として、約四半世紀を

部長より

顧問 中井 仁



茨木高校硬式野球部OBの皆様にはますますご清栄のこととお喜び申しあげます。高校野球界は七十年以上の歴史を経て、いよいよ充実・繁栄の時期を迎えています。まさに今、同慶の至りと申し上げます。昨今では、高校硬式野球部も、生徒数減少の中にもかかわらず、今年も14名の新入部員を加え、総勢40名を擁するまでに成長してきました。

数ある校内運動クラブの中で、今や中核をなすクラブの一つとして活躍しています。昨年の大会では、松枝監督、赤井コーチに率いられて、1981年秋以来のベスト16位を達成することができました。偏にこれまでの継続と蓄積の結果と、OBの皆様が改めて感謝いたします。現在、お蔭様で部員たちは恵まれた環境のもとで日々練習に励むことができます。しかし、公立高校ということで、自ずから人的・物的に制約があることも事実です。今後とも皆様のご支援・鞭撻のほどよろしく願います。